

## 日中友好観光振興フォーラム 2010

日時：2010年4月9日(金)

<第1部>14:00~15:30

<第2部>15:30~16:30

<第3部(懇親会)>17:00~18:30

場所：東京ベイホテル東急 インペリアルホール

### <第2部>医療ツーリズムシンポジウム 開催速報



コーディネーター：医療構想・千葉 了徳寺大学教授 増山茂 [s\\_masu@za2.so-net.ne.jp](mailto:s_masu@za2.so-net.ne.jp)

今や世界において医療は「グローバル産業」の1つと考えられている。タイ、シンガポール、韓国、UAEなどの国では、国のサポートのもと積極的にメディカル・ツーリストを受け入れている。

おそらく毎年数百万人の患者が、①安い費用②短い待機期間③良好な質④特殊な治療(美容手術、視力矯正手術、移植手術、統合医療、不妊治療など)を求めて国家間を移動している。一部の患者は既にインターネットを利用して、国境を越えてベストの医療を求めて移動している。

しかし日本ではメディカル・ツーリズムは未だ黎明期にある。この理由として、安い医療費とフリーアクセスを保障する皆保険制度の存在、言葉や文化の障壁により人の流動性が非常に低い、国際的評価を受けた病院がほとんどないなどがあげられる。

今回はこの黎明期に動き出した先駆者にお集まりいただきお話しを伺う。観光庁は国のレベルで将来の道筋を明示するであろうし、成田空港を持つ千葉県にある3つの先進的医療機関の取り組みは全国的先駆けである。また、国外市場を開拓し、国内医療機関の経営戦略と密着し、精算、販売、流通を一体化し、関連する産業をも巻き込むコーディネーター役がなければこのシステムは絵に描いた餅となる。これを担う代表的3社からお話しを伺う。

コーディネーター：医療構想・千葉 了徳寺大学教授 増山茂



パネリスト：

1. 観光庁の医療観光に関する取り組み  
観光庁審議官 甲斐正彰
2. 千葉大学の Medical tourism 構想  
千葉大附属病院病院長補佐 高林克日己
3. 画像診断の解析とシーメンス社の機器の開発支援  
千葉県がんセンター画像診断部部長 高野英行
4. ヘルスツーリズムの実際と問題点  
亀田総合病院理事長 亀田隆明
5. JR東日本の取組み  
東日本旅客鉄道（株）営業部次長 太田稔
6. 医療ツーリズムと藤田観光  
藤田観光副社長 田口泰一
7. メディカルツーリズム推進上の課題とマーケットへの挑戦  
JTB ヘルスツーリズム研究所所長 高橋伸佳



## 1. 観光庁の医療観光に関する取り組み

### 観光庁審議官 甲斐正彰

昭和56.3 東京大学法学部卒業  
昭和56.4 運輸省入省  
平成15.1 国土交通省  
総合政策局国際協力課長  
15.4 同  
観光部国際観光推進課長  
16.7 内閣官房内閣参事官  
18.7 国土交通省総合政策局  
環境・海洋課長  
20.7 同航空局監理部総務課長  
21.7 同 観光庁審議官



### 1. 国際市場と諸外国の取り組み

- 2012年には、1,000億ドルの市場規模に到達する予測
- 医療観光者はアジアへの流入が顕著
- 韓国、マレーシア、シンガポールでは、政府関連機関主導のもと実施

### 2. 観光庁における取り組み

- インバウンド医療観光に関する研究会
  - ・医療観光は、国際交流のみならず、地域経済の活性化や国際貢献に資するものとして期待
  - ・訪日外国人患者等の受入体制整備にあたって、実証事業を実施し、具体的な課題を検証するとともに、医療観光の振興を図るため、医療関係者、法曹関係者、旅行会社等の参画の下、平成21年7月より研究会を開催。
- 事業化調査における課題
  - ・ニーズ、ポジショニング分析
  - ・認知度向上、訴求
  - ・販売
  - ・医療観光サービス提供
- 観光立国推進本部
  - ・医療観光についても、観光立国推進本部の下に設置された観光連携コンソーシアムにて検討

### 3. 今後の取り組み

- 医療観光の3類型
  - ・健診
  - ・治療
  - ・美容、健康増進
- 関係省庁との連携
  - ・経済産業省、厚生労働省等関係各省庁との連携
- 平成22年度観光庁事業概要
  - ・海外プロモーション
  - ・外国人患者等の渡航、受入環境整備
  - ・医療観光ツアーの多様化、高付加価値化

## 2. 千葉大学の Medical tourism 構想

### 千葉大附属病院病院長補佐 高林克日己

昭和 50 年千葉大学医学部卒。免疫学などの基礎的研究とともに第二内科で膠原病の難治症例の臨床に従事してきた。平成 13 年千葉大学医学部附属病院医療情報部助教授、電子カルテの開発を進めてきた。平成 16 年 5 月より企画情報部教授に就任、個人情報保護法のガイドラインの作成にあたった。

現在千葉大学医学部附属病院長補佐として病院経営、千葉大学病院再開発計画の策定に関わり、病院企画・運営の中心として活躍している。



千葉大学医学部附属病院は、Medical Tourism が普及する中で、成田空港を抱える日本の玄関として、ショーウインドウ的病院になるべき活動を進めている。海外旅行者において外国で病気になるほど不安なことはない。しかしこうした海外での疾病に対して安心して受診できる施設自身は限られている。

発表者は自らの患者グループの欧州旅行の添乗の経験からこうしたグローバルなネットワークの必要性を考えている。そうした施設の一つとして当院が今後さらに認知される存在になること、例えば JCI の所得、TEMOS の関連施設になることが一つの目標である。

さらに当院は世界の最先端の医療を競って各分野で進めてきた。これらの還元として地域医療に貢献することだけでなく、日本全体、さらには海外にまで当院での受診を希望する患者を受け入れる環境を整えつつある。このために単に医療技術だけでなく、国際水準のアメニティを考慮した施設の準備を進めている。



### 3. 画像診断の解析とシーメンス社の機器の開発支援 千葉県がんセンター画像診断部部长 高野英行

1986年千葉大学医学部卒業後、琉球大学付属病院助手、埼玉県立小児医療センター医員、千葉大学医学部 助手、アメリカ合衆国アイオワ大学放射線科客員講師、千葉大学医学部 講師 を経て、2001年より、千葉県がんセンター画像診断部部长として、画像診断、インターベンショナルラジオロジーを専門とする。

現在、日本医学放射線学会会員、代議員、日本放射線科専門医会・医会、理事として、最新の放射線医学の発展と普及に尽力している。また、臨床研修 千葉県立病院群 プログラム責任者として臨床研修医の育成にも取り組んでいる。



画像診断の進歩は、中でも、CTの進歩は、著しい。心臓の冠動脈や脳血管の画像化が出来るようになってきた。

体の全ての領域を高速で、1mm以下のデータとして取り込み、それを3次元化することにより、一回の検査で、全身の臓器を検査することができる。

千葉県がんセンターでは、「がん」が対象であるが、高齢者も多く、手術中に亡くなるリスクもある。心臓や脳血管の検査もスクリーニングとして行う。また、子宮がんのCT検査で、肝臓がん、膵臓がんなどが見つかる。

今回、千葉県がんセンター画像診断部とシーメンス社、富士メディカル社との共同研究の成果を含めて、Dual Energy CT、画像認識などの新しい画像診断技術を紹介する。これにより、一つの検査で全身の検査ができるワンストップショッピング検診も可能であると考えられる。日本人の三大死因である「がん、心筋梗塞、脳卒中」に関する検査を一回で行うことが出来る。

#### 4. ヘルスツーリズムの実際と問題点

医療法人鉄蕉会 理事長 亀田隆明

昭和 53 年に日本医科大学医学部を卒業。順天堂大学医学部胸部外科教室大学院等を経て、昭和 58 年に亀田総合病院の心臓血管外科医として勤務。

昭和 60 年医療法人鉄蕉会副理事長、平成 20 年より同理事長に就任。平成 16 年から 4 年間、国立大学法人東京医科歯科大学の医療担当理事も兼任。

病院経営者の視点に立って活発な社会的発言を行う。財務総合政策研究所「持続可能な医療サービスと制度基盤に関する研究会」メンバー。平成 21 年 5 月の財政制度等審議会では有識者として社会保障制度・病院経営に関する諸問題について発言している。



当院は、国内初・唯一の JCI 認証病院として幅広い外国人患者の受け入れを行なっている。JCI, Joint Commission International は 39 カ国 305 病院 (2010 年 3 月現在) を認証している世界最大の国際病院評価機関である。

当院の外国籍患者(国内在住者を含む)は年間約 700 名、内、海外からの来院患者数は 100~200 名である。ビザ申請補助、保険会社とのやりとり、診察時のアテンド等が必要な場合は国際関係部職員が専任であたっており、英語・中国語の二ヶ国語で対応が可能である。

日本の医療ツーリズムについては、現在、各省庁単位での実証調査が行なわれている段階だが、今後はさらに省庁間の連携を期待したい。とくに、医療ツーリズムを外貨獲得手段としてのみ捉えるのは微視的である。日本の病院が国際的な土俵で切磋琢磨することで、国際水準の医療サービスが実現される。その際、最も恩恵を享受するのは国内の患者にほかならない。

## 5. JR東日本の取組み

東日本旅客鉄道(株) 営業部次長 太田稔

昭和49年4月 日本国有鉄道  
入社

昭和62年4月 東日本旅客鉄道  
株式会社 入社

平成17年5月 同仙台支社営業部長

平成20年9月 同本社営業部 次長  
(現職)

当社の鉄道は、ビジネスだけではなく、観光のお客さまに乗っていただくことが重要。顧客戦略では「シニアマーケット」への取組みとして「大人の休日倶楽部」があり、インバウンドに対しても社内に専門チームを設置している。

団塊の世代が続々と退職し、ゆとりをもった知的好奇心旺盛な「アクティブシニア」が登場している。この彼らのニーズの受け皿として会員組織化されたものが「大人の休日倶楽部」。彼らはアクティブであるが故に、自分たちへの健康への意識も高い。会員旅行で「脳ドック」「PET検診」などのツアーも好評を博している

続いてインバウンドへの取組みについて述べる。当社エリアには東京以外に富士山・京都に匹敵する世界的観光地がない。しかし、スキーをはじめとした「スノーリゾート」を有している当社では外国語の電話サービスや外国人向けの旅行センターの設置でソフトの充実、「JEP」、「Suica&NEXT」など切符の販売や「外国人向けの駅からハイキング」にも取り組んでいる

「駅からハイキング」。当社が地域と共に行う観光開発の端緒となる無料イベント。地元と当社の共催で、好評なものについては旅行商品化などを検討していく。

当社の観光開発は「地域と共に」、「未だ埋もれているお宝」を磨き上げる手法をとっている。その結実として「旅市」という旅行商品ブランドを昨年立ち上げた。「旅市」とは地元の人が提案し、案内する商品であり、「大人の休日倶楽部会員」の知的好奇心も満たす商品である。

「地域との共生」を目指し、当社はたゆまぬ努力を進めていく。



## 6. 医療ツーリズムと藤田観光

藤田観光株式会社 取締役副社長 田口 泰一

昭和 45 年 藤田観光入社後、主に開発、企画畑を歩み、平成 17 年よりワシントンホテルカンパニープレジデントとして、全国 26 店あるホテルグレイスリーおよびワシントンホテルを統括する。平成 21 年 専務取締役事業本部副本部長として、全藤田観光を管轄、本年取締役副社長に就任。



1. 藤田観光の事業概要
- 2.
2. 藤田観光と中国との関わり
  - ①箱根ホテル小涌園での中国要人・文化人の受入れの歴史
  - ②宿泊の記念としての揮毫(キョウリ)
  - ③北京での「藤田観光箱根小涌園 中国各界代表団揮毫足跡展」の展示会開催
3. 中国旅行者の受入れ環境整備と課題
  - ① 中国のお客様の利用実績
  - ②中国人の雇用の推進
  - ③銀聯カードの全事業所設置
  - ④藤田観光グループの中国語 HP のインターネットサーバーの中国国内設置
  - ⑤受入れに関する今後の課題
4. 中国営業の取り組みと課題
  - ① 中国営業部の設置
  - ② 中国旅行博への積極的参画
  - ③ 富裕層向けの医療観光商品の開発
  - ④ 医療観光商品の造成・販売における課題
  - ⑤
5. 中国人訪日誘致に関わる課題



## 7. メディカルツーリズム推進上の課題とマーケットへの挑戦

### JTBヘルスツーリズム研究所所長 高橋伸佳

JTBグループにおいてヘルスケア、メディカル事業領域を活用した地域活性化に係る調査・研究業務に従事する一方、心理学的、生理学的研究の社会的応用をテーマとした事業開発業務に従事。2005年より現職。日本経団連ヘルスケア産業部会「健康投資と企業経営」委員、経済産業省近畿経済産業局「健康産業の見える化」委員、大阪市「健康・予防医療プロジェクト」コーディネイター等、社会活動としての役職を歴任。特定非営利活動法人日本ヘルスツーリズム振興機構事務局長も兼務。



メディカルツーリズムは、主に「価格」、「最先端技術」、「待機時間」のギャップから生じる国境を越えた医療を求める人の動きである。アジアをみると、2009～2012年にかけて14%の複合年間成長率で成長することが見込まれているが、日本の存在感は薄い。

国内旅行・観光業界では、近隣諸国の動きに対し新たなビジネスチャンスとして注目してきたものの、メディカルツーリズムの参加者は既存の顧客層とは異なる層であるとみられることに加え、医療リスクの捉え方が見出せず、取り組みについて二の足を踏んできた感がある。一方、国内医療業界をヒアリングしてみると、国内医療の問題はもとより、言語・文化的な問題、決済問題などが足かせ要因になってきたことがわかってきた。

このような状況に鑑み、国内医療機関の経営戦略と密着し、マーケティング、商品企画・造成、販売、流通を一体化し、関連する産業をも巻き込むコーディネイター役として供給連鎖（サプライチェーンマネジメント、SCM）の主要な部分を担うべきであると考え、研究と試行を続けてきた。

なお、今春より、JTBグループとして独自のプラットフォームを設け、国内医療機関に代わり、予約手続きの代行から受診するまで、ならびに通訳や病院までの交通・宿泊手配、決済などを総合的に提供できる体制を整え、中国をはじめとした新たなメディカルツーリズムマーケットの創造に挑戦する。